

私たちの町の遺跡 伝説の池 味生池

■「龍の伝説の池 味生池」

『続日本紀』という史書によると、奈良時代初期、肥後国司の道君首名(みちのきみのおびとな)は味生池(あじうのいけ)という農業用ため池を築き、人々は大いに感謝したそうです。

「池辺寺縁起絵巻」によると、池に住む悪い龍をしずめるために建てた寺が池辺寺(ちへんじ)で、池辺寺や池上町の「池」は味生池のことです。龍は人間の女性だったのですが、ねたみが強すぎて龍になったそうで、仏の力によって悪心が消えて天に昇っていきました。その際に雨を降らせる方法を僧に教え、以来池辺寺は雨乞いの寺としても有名で、細川藩の記録にも残されています。

味生池は、谷尾崎から万日山と独鉦山にはさまれた一帯にあったと伝えられています(写真1)。加藤清正の時代、月感上人の申し出によって池は埋め立てられ、新たにできた村が池上の新村です(写真2)。今の井芹川は昭和5年頃に付け替えられたもので、以前は西山中学校から北岡神社の方に流れていました。新しい道路や建物も増え、池の面影はほとんどなくなってしまいました。



← 味生池推定地
(池上から東を望む)

月感上人の記念碑

